



(六郷)

秋田・観音堂遺跡

かんのうどう

- 1 所在地 秋田県仙北郡仙北町板見内字観音堂
- 2 調査期間 二〇〇三年（平15）七月
- 3 発掘機関 仙北町教育委員会
- 4 調査担当者 山崎文幸
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

観音堂遺跡は仙北平野のほぼ中心に位置する遺跡で、川口川の南岸に立地する。県営担い手育成基盤整備事業堀板地区事業の事前分布調査で遺跡が確認され、発掘調査を実施したものである。

遺跡は近世の集落と考えられ、掘立柱建物・井戸・土坑・河川などが検出されている。掘立柱建物は二棟検出され、一棟には掘形底面に柱根と礎板、もう一棟

には柱根が残っている。河川は新旧三条が確認でき、河川間の微高地に掘立柱建物や井戸が配されている。

遺物は、土師器小片が少量と近世陶磁器片が数点出土したのみである。

木簡一点は、直径約1m深さ一・一五mの円形を呈する井戸の掘形埋土と井戸枠に使用された曲物の接点から出土した。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「十本ほうしへ」

161×31×3 051

長方形の材の下端を尖らせている。裏面は割れ面をそのまま残しており未調整である。材質はスギである。

(山崎文幸)

